

発行
キャンペーン委員長
小松久 信
全日会報委員会
北川 尊久

この通信を読みまして、御意見御感想がありましたら遠慮なく下記住所宛にお送り下さい

東京都文京区駒込富士前町

小松久 偲

主 旨

今日、社会の発達、とりわけ経済の発達はその機構を細分化しその機構に於ける人間の役割をも必然的に閉鎖的な分業の枠の中に押し込めている。その結果、もはや個人は社会総体を把握することが不可能となつてきている。

往年の名作「モダン・タイムス」のチャップリンは、弁当とスパナ一本を毎日工場に持って行きネジを締める仕事のみを機械的にを行い、結局自分は何何を作っているのかわからない。その仕事を毎日続けて行くうち或日、締め忘れたネジを追って車庫の間に巻き込まれ重傷を負ってしまう。この「モダン・タイムス」に象徴される悲劇は、今にもう一つの映画の上で

現実へのアタック

一九六五年日本——の現実の中の意味を知らず「自」の明日を知らにわれわれは生存している。時間 ない。

このような希望のない、主体性を喪失した生活から、脱却するた
めにわれわれは運動を起こさねば
ならない。もはや、現状を嘆い
たり、説明したりしている時では
ない。具体的な運動を展開し、わ
れらの間に、それを担ふ、現実か
ら求められる。

ところで、われわれはこの現実の自分にとっての意味を把握しているだろうか？そして、この把握の上に自らの確かなる目標——自らの生きる意味をもっているだろうか？

「来たるべき道を形成することを急がねばならない。全日本学生写真連盟の「キャンペーン」はその必要に答えるものに他ならない。

われわれは一九六五年日本の現実を把握し、われわれのものとし、

この問に確信をもつて解答を言
せられる人が幾人あるだろうか。

だれもが生存しながら、その生存

出発だ！

のフィクションではない。そして現代、工場の作業の全体として結果(単に完成品ということではなく、その使用効果までも含めて)を、そこに働く工員が知らな

いし知りえないということば、単に二場と二工員との間のできごとであるという事にとどまらず、それを端緒にして人間が身辺のできごとを道してしか社会総体を把握できない以上、それは社会に生きる一個の人間と社会との関係にまで波及しているのだ。

しかし、先述したように、一個の人間彼自身をとりまく現実から社会総体を把握することが不可能になり、又人間自身にとって現実とは、マスコミニゲーションという一方的コミュニケーションによる投げ与えられた「現実」ではないか。

現代社会に於いては、もはや一個

ところで、個としての人間の欲望は彼が社会的動物である限り（人間）社会でのみ充足される。そして、個としての人間の進歩は彼自身の欲望を、彼をとりまく現実社会に對する彼自身の位置の確認（現実と彼自身との關係の）に他ならぬ。

テーマ

狀況

一九六五

問がいづら「自己」をとりもてようといふがいてみて、あまりうまくゆかないであらう。それは人間が身も心も容赦することのない実用的必要性の支配下におかれてしまつからであり、そうした実用的必要性は、人間がそれから目を離すことを許さなくなるからである。こうして、彼の動作のすべて、ゆつたりしたところがなくなり、彼の思考には、全く包容力が欠けてしまふのである。自分の身の上におくること、また、おくるかも知れないことについて、彼はその出来ごとが、その他の同じような無数ののできごと、それも、彼自身が関係しなかつた、つまりやらなかつたのだ。たゞ社会が個人の加算的集合（等号で結ばれない）しろ、また、その等式の発見の現代発見されてないしろ、人間の社会は間違ひなく、個としての人間を基礎単位としてゐることは事実なのだ。たゞそれが物理的総和ではなくいつてみれば、化学的総和であるかもしれないだ。そして人間（個人）は社会的動物であり、人間（個人）は（社会的）環境に規制（形成）されつゝ、また逆に（社会的）環境を規制するのだ。だからA・フルトンとR・ベネディクトを引用しつゝ、先述した事柄もまた、これらのことと関係あるわけなのだ。

そして、現代社会が私たちに対していかなる時代にもまして、強く外部から一つの行為規範を押しつけようとして、自己（他者との関係を間接化し、又、自己と社会との関係を傍観的にしようとしてゐる）今、私たちはA・フルトンの嘲笑とR・ベネディクトの憤りを加えて、全く自己内部からの行動を喪失しようとしてゐるのだ。

時に、私たちは幾度も確認して

テーマ状況

て、以上の点、個人と社会が、
相関の關係にあり、そして個人を
基礎單位として社会が成立してい
るということ、A・フルトンの
書を考えてみるならば、個
人として社会として、
進歩の原則である、可算な
自己に疑問を課し、それを解き明
す作業を、今こそ展開しなければ
ならない。金日本学生写真連盟
は、その作業を一つの運動として
展開しようとしているのである。

金日本学生写真連盟は、文化サ
ークルの原則である、『最終決定権
は個人に』と、写真の原則である
『カメラマンが自分と現実との対
決に対しての興味(問題意識)をも
たない時、決して作品は誕生し
ない。』というこの二つの原則に
立脚して次のようにこの運動を規
定した。

一九六五

カメラマンたる彼は自分にとってのつづきならない重大な問題を抱き、**被写体（現実）**を通して表現する。このことによって彼は既に自己に対して疑問を課したことになる。そして彼は現実に対しての自己の位置を確認することになる。

そのことによって、彼も現実も靜的な間接的な傍觀的な積極的な消極的な無關係な状態から、動的で直接的で客觀的で積極的で關係づけられた状況に変化するのである。それを本部キャンペーン委員会に送り、そこにおいてその作品群の中に表現された個人の様々な問題意識を相對立するように、又、

と云ふ。」「といった日本人の性格の中で更に倍加されてゆくのである。

ところで、幼児から成人への個人の發育（進歩）が疑問符を啗食なく自己に課することによつてたゞれるうちに、広く人間（社会）の進歩（發育）も同様に思われる。（まさに）「個体發生は系統變生の繰り返し」は逆もまた真であらうから、確かに、それはどうな

ディクトが述べる「欧米文化は毎いの文化であり、日本の文化は恥の文化である」ということ、つまり、欧米文化の悔いというこのとは、意識と行動の原点を自己に置いてゐるが、日本の文化はそれを恥という外面的な事物のつき合わけ、かわり合ひに置いていることから考えれば、まず、日本人の中にすでに自己に対して疑問符を課し、それを解決するという態

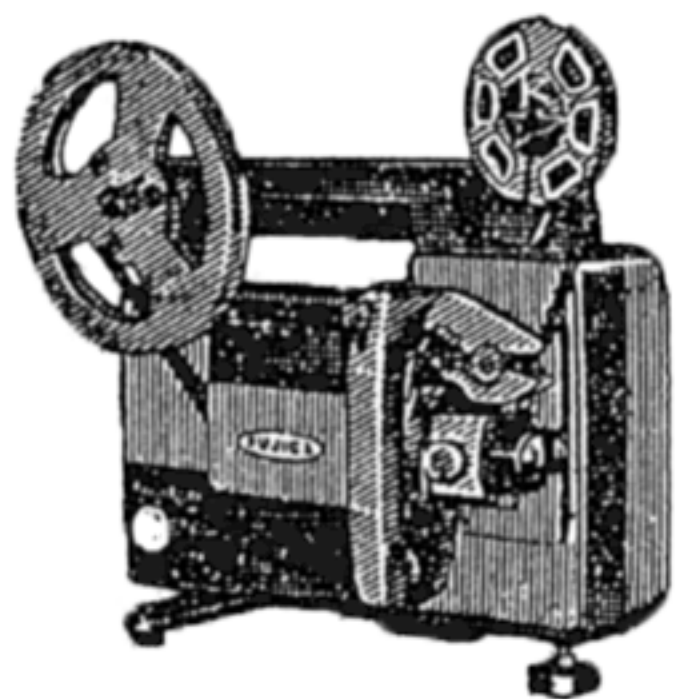
共鳴して力が倍加するように關係づけ、その総体として一九六五年の日本のいや、日本人の状況を描きたしたいと考えるのである。

そして、これを観客に対して一個の現實として提出することに上り、彼に対して、日本の現實と直面し自己の位置を把握するようにと呼びかけたいのである。

世界が注目した新しい8ミリ

シンクル-8

- マガジン入りフィルム
- 15m (50フィート) 連続撮影
- 黒白・カラーつめかえ自由
- 画面サイズ拡大でシャープ
- 映写もワンタッチシステム



フジカ シングル-8 P1

現金正価 カメラ16,500円 ソフトケース600円 ハンドストラップ300円
定価 カメラ17,400円 ソフトケース600円 ハンドストラップ300円

映写機= **フジカスコアM1 / フジカスコアM2**

現金正価 16,500円 定価 17,400円 現金正価 29,500円 定価 31,000円

フィルム==

ジカラーR25
1,500円(現像料込)

ネオバーR50 / ネオバーSSSR200

15m ● 750円(現像料込) 10m ● 750円(現像料込)



カメラは **フジカ** **富士フイルム**

53号記事募集中

全日本学生写真連盟では、53号会報の記事を募集しております。会報充実のため、皆さんの御意見を、お寄せ下さい

締切 7月中旬まで
送り先 東京都品川区大井

桜井寿子

—原則的に—

もつ諸個人が構成している社会に於いて、その諸個人から発しつつも、又、それを確かな基礎単位としつつも、それら諸個人の単純な総和とは異質な状態が、かもしだされることが同じことなのである。

全日・カヌラ・キャンペーンにおける写真レイアウトは、自己の身边（人間が肉體と精神との総体である以上、単に肉體的という意味ではない。）の現実を通してつまり、そこを起点として、まるでジャンクルのような圧倒的に巨大な現実にはタツクしよとした撮

（注）そこに表現されるものは単にジャンクルのみの貌ではない。それは、撮影者自身の貌でもあるのだ。なぜなら事物は三層以上の比較、葛藤によって始めて・そのすべての者の貌を現わすのである。いかにある時も、一者のみに於いて又は、一者のみが貌を現わすこととはない。

さて、全日・カヌラ・キャンペーンでは具体的な人間の役割が、撮影者とレイアウトとに分離している。しかし、その両者のコミュニケーションは閉ざされてはいない。

(注) でないとすれば、共通の目的や意志は、たつた一人においてすらも成立しないということになる。そして、この論理は、組織や尊敬や恋愛は、全く虚偽であるという結論に私たちを導くのだ。ひいては、写真はおろか、一切の芸術作品のうちにくめられた大なる意識は、実は、人々に伝っていないということとなつてしまふのだ。私たちが、物を見る時、限らず、主観が入るといふそれ自体、現実へのアタックへのスプリングボードとして、むしろ積極的に肯定する行ふ。

このような原則のうえに、今日、本部キャンペーン委員会は、次のような方法をとりたいと思ひます。

一、本部キャンペーン委員、ならびに各地区キャンペーン機関員は、広範な一九六五年日本の現実に対する学習を行ふ。一著の間に討論レートをもち。

二、レイアウト、及び、学習のための顧問団を設置する。

三、十月中旬、本部キャンペーン委員と各地区キャンペーン委員との、レイアウトのための合宿を行ふ。

たある人は、見る順番に關連させて見る。そして同じ写真をつなげて見る人も、それぞれ様々に感ずる事でしよう。我々は個人々が様々に撮つた、様々な写真を見たいと申し、様々な物語を伝えたいと思ひます。

論文は、数名の人に、一九六五年の姿を様々に語ってもらひ、引用文は、雑誌・新聞をはじめ、あらゆる印刷物からピックアップを行ない、これにも、引用文どうしの様々なぶつかり合いや一致が見られる事でしよう。

いませ。

作品締切
八月末日着
送り先
東京都町田市
三崎
徹

鈴木 政功

非行が反社会的行為を起すことと、定義されるならば学生運動である。……学連……同盟の学生も又、非行と言ひ得るのではないでしようか。

事實、彼らはデモ参加国家権力である警察との衝突、乱闘、大暴検挙等一連の反社会的行為を起しているのです。当然このような場合、彼らは国家権力である法規範によつて物理的、組織的な制裁を受けることになるのです。又、

これがつまり反社会的行爲として社会は彼らをみなすのではないでしようか。

しかし、この道徳においても、本来の道徳の意義は失なわれ、絶えず支配階級の利益と含致しているのです。そしてその道徳が宗教的なおきてとか、人間の本性等の普遍的な原理と結びつけられて支配階級の利益、そのことじたい

いのではないでしようか。

我々にはこれら相互の価値基準優劣はわからない。むしろそれは将来の歴史が物斷つてくれると思

う。

現在、我々がなさなければなら

自 殺

小宮 浩

冷害による自殺者が多数出ているけれども、冷害という一つの事実はだけが冷害による自殺というものに作用しているのなうか。自

つて社会に対する我々の認識が
れてくるのである。

そのことが我々吾国己の主体
の確立に他ならない。さあ、我
の主体性の確立のために新しい
造のために第一歩を踏みなぞら

行事経過及び予定

三月中旬 全国総会向け、趣
嚮、企画製作
三月下旬 全国総会開催

今日、一般的に組織がもつ大きな欠陥は、ユニニケーション・ルートの閉鎖・不在である。これのできる限り排除してゆかねばならない。

さて、本キャンペーンの組織は（全日本学生写真連盟代表委員総会）の下に、各地区の実情に依じて、各地区キャンペーン機関が構成され、それは全日本本部・キャンペーン委員会から書記局連言、及びその他の刊行物を通して提起されたキャンペーン主旨・企画・テーマを討議し疑問点や反論を全日本本部キャンペーン委員会は、この提示されたものを検討する。この作業を反復することによって、全日本本部キャンペーン委員会と、各地区キャンペーン機関との意見の疎通をはかり、相互の関係を密にすることが可能である。

さて、各地区キャンペーン機関は、斯様にして理解したキャンペ

推薦の言葉

全日総以来、本部キャンペーン委員会から随時提出された「状況」一九六五の主旨、企画その他諸々の通達事項を受けて、我々関東学写真連は、活動方針の一環として実行に移して来た。

関東においては、個人の写真よりむしろ共同制作に重点が置かれ、クラブの運営手段と化している現

会を知ると共に、自分自身を鍛える、すなわち己れを厳しくする事が出来る。それらにより、自分を認識し、また、サークルにおいても生かす事もできるはずである。この活動に皆さんが、積極的に飛び込む事を、期待します。

専大写真研究会
伊藤 肇

我々高校生が、今年からこのキャンペーンに参加出来ることを大

四月下旬	本部キャンパイン 員会正式決定
五月下旬	「キャンペーン」 一マ決定（本部）
六月上旬	「キャンペーン」 一マの全国配布
六月中旬	「キャンペーン」 ビールのための新 作成
六月下旬	キャンペーン総会

いるわけである。

最近僕は「あたりまち」と書つて言葉に矛盾を感じている。これほど無責任で適当な言葉はないと思ふからである。現社会はあらゆるものが複雑に発達し社会を形成している。このようなことから我々はそれらの複雑の中で「あたりまち」と言う言葉によつてあたかも

て身める形式をとつて一九二五年の状況をはとりひとりが改たためて考え明白に自分自身の歩むべき道を切り開く實際的な運動なのである止まつてはダメだ、歩もう／＼

東京都高校写真連盟
委員長 石田耕一郎

後には詳細
募に応に

五月下旬	「キャンペーン」 1マ決定(本部)
六月上旬	「キャンペーン」 1マの全国配布
六月中旬	「キャンペーン」 ビールのための新 作成
六月下旬	キャンペーン総会 催

詳細は後日配布

「……形式としては、このまゝの回の内容を、目玉としてきた話し、わかつたはクラフをあそびと思つていいよ。」

又ラ部
反崎 龜之

かかった問題を解決するために苦悶し、揺れ動く日常という細い綱の上から、死によつてその問題が解決するという仮定の下に自殺という非日常の世界にとびこんでしまふのか。また人生の途中において自分に与えられた深刻な問題に苦悶しその問題を解決でき自分の人生を死によって先取り出来ると思へることによつての勇み足が自殺なのか。

それらを考えることが、現代社会の中に生きることに対して与えられた課題ではなかろうか。

八月下旬	最終締切
八月初旬	原稿締切
九月下旬	レイアウト概略会 交渉
十月中旬	レイアウト完成 入稿
十月上旬	キャンペーン総会 催
十月中旬	年表完成
十月上旬	印刷代徴収完成
十月中旬	レイアウト完成 覽会
十月上旬	展覧会 本出版

限り、問題は本質的に解決しない
と云う考え方は、そのまま本年度
の我がクラブの方針にもあたりま
す。また吉田と云う組織の特色を
生かし、できる限りの可能性を
見い出さうといふ点を積極的の評
価して、私達も参加したいと思ひ
ます。

明大カレッジクラブ
キャプテン 岡崎 勝

キャンパーン自体少々疑問を持
つていましたが、主旨書を読み
聞き、私個人としてもこのキャン
パーンに参加する事によって、土

年ハ、本を出版されるとか、我々は立派な作品を作り、この本に載せられるよう努力したい。今までのキャンペーンが、上から下への一方的な……であつたので、我々のような小規模なクラブでは考えさせられました。今回のキャンペーンが、個人参加ということで、我々部長としても個人々々の意見を重要視し、これからできる限りこの全日キャンペーンに協力していきたいと思ひます。

札幌東高校写真部々長
平野 弘人

☆ 全日

今までのキャンベーン形式とは違った、新しい試みによる今回のキャンベーンに注目していきたい。これから部員に話し、わかってくれるならば、私はクラブをあげて、参加していきたいと思う。

法政大学カメラ部

かかった問題を解決するために苦悶し、揺れ動く日常という細い綱の上から、死によってその問題が解決するという仮定の下に自殺という非日常の世界にとびこんでしまうのか。また人生の途中において自分に与えられた深刻な問題に苦悶しその問題を解決でき自分の人生を死によって先取り出来るかと考えることによつての勇み足が自殺なのか。

それらを考えることが、現在社会の中に生きることに対して与えられた課題ではなかつたか。

八月下旬	最終締切
八月初旬	原稿締切
九月下旬	レイアウト概略会 交渉
十月中旬	レイアウト完成 入稿
十月上旬	キャンペーン総会 催
十月中旬	年表完成
十月上旬	印刷代徴収完成
十月中旬	レイアウト完成 覽会
十月上旬	展覧会 本出版